

富士をお供に御坂山塊のメインルートを
御坂黒岳～節三郎岳～大石峠

実施日 2018年3月18日(日)
天候 晴れ
リーダー 涌井 良明
参加者 涌井良明、山崎富美恵、白石恵美子、石附智江、渋谷京子、石原勝正、小名秀鋭、峯川弘子、宮崎敏男、橋口美鈴 計10名
費用 JR 2,640円(新宿起算)
富士急員 2,280円 乗車券 1,150円
タイム 河口湖駅(9:05乗)三ツ峠入口(9:25~9:35)休(10:36~41)旧御坂峠(11:08~18)黒岳(13:13~48昼食)新道峠(13:46~56)節三郎岳(14:20~30)大石峠(15:27~40)大石ペンション村(17:00~46乗)河口湖駅(18:05~33乗)

河口湖駅への車窓から青空に圧倒的な存在感を見せる富士に、山中からも秀麗な姿が見られる期待が膨らむ。河口湖駅前には外国人も登山仕様の姿も少なめでチラホラと言った感じ。天下茶屋行の乗車も座席が埋まるくらいなので動き出す。2個目のBSで峯川さんと合流、三ツ峠入口BSで下車。下りたのは我々のみ、行程中も殆ど登山者に出会うこともなく、おかげで我々だけ富士の眺望を存分に楽しむことができた。



ゆっくりじっくりと峠道を辿って、旧御坂峠に、遙か頭上を見事なヒコキ雲が横切っていく。



尾根歩きになって黒岳までの270mの標高差を登る、登山道は勿論右側の北面にも残雪は殆ど見られず、優しい陽射しも相まって春になったなあ！と感じながら進むのだが、最近サボり気味の体になら登る。



それでもガイド通りの時間で黒岳に、正午も回ったと

ころで、早速昼食になる、無風と柔らかな陽射しで快適な時間だ。しか〜しっ！今日はここからが長いのだ。既に反省会は諦めざるを得ないのがハッキリしてした。落葉の下で軟らくなった泥道で楽しくない黒岳を下って、すずらん峠と破風山を越して新道峠手前には富士山の絶景ポイントがあった。穏やかな表情を我々だけに見せて



くれている富士に日本の山って何と…。しばしの眺めと写真に興じる時間がかかったのは方ないところである。新道峠で一息入れて、大石峠までの稜線を進む。この間を繋げたいがために参加された方もいるので、Lとしても下山が遅くなっても割愛するわけにはいかないの(^^;)更に尾根を進む。

富士周辺は痩せ気味の稜線が多いがここもそんな感じの尾根道だ。節三郎岳(中っ頭山)を越すと、やや岩の多い道が少し続く。道が単調な尾根道なので変化が良いかも。



小さな不逢山のピークから緩く下るとカヤト様な持ち良い大石峠になった。相変わらず美しくたおやかな富士の姿が望める。登り始めからずっとお供をしてくれた富士と今一度に思い思いに写真に収まってから大石へ下る。



淡々とした下りから、若彦トンネル沿い側道をダラダラ下って、ペンション村

BSには17時丁度に到着。日没も近くになって寒さも増してきたようだ。貸し切り状態の乗車で河口湖駅へ、暮れゆく富士が車窓から見送ってくれた。

今日の穏やかな天気、ずっとお供をしてくれた富士さんに、そして何よりしっかり歩いてくれた参加メンバーに感謝します。アリガトー！

お疲れ様でした！また富士に会いに行く山歩きをしたいものですね。

(記&写真・涌井 良明)